

平成 26 年 3 月 5 日

平成 25 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 3 回学校協議会議事録

日時 平成 26 年 3 月 5 日（水）  
15:00～17:00

場所 茨木工科高等学校 会議室

出席者 委員長 1 名、委員 3 名、校長、教頭（学校協議会事務局長）  
首席 3 名（事務局員 2 名）、教務主任、生徒指導主事、機械系主任代理、電気系主任、  
環境化学システム系主任、初任者 2 名

協議

1．開会挨拶（校長）

2 月 20 日に前期入学者選抜を実施した。詳細は担当者から報告する。工学系大学進学専科 40 名を単独募集したところ 34 名の志願であった。総合募集の専科では 280 名募集のところ 355 名の志願があり、1.27 倍で 4 年ぶりの高倍率であった。工学系大学進学専科について 40 名に満たなかった 6 名を総合募集の専科で不合格であった生徒のうち、工学系大学進学専科を第 2 志望としていた志願者から補った。大阪府教育委員会の入学者選抜方法に則った選抜方法である。大学進学専科に第 2 志望で合格となった生徒と第 1 志望で合格となった生徒では学力に大きな差が生じる可能性がある。入学後の学習指導が課題となる。

話が変わるが 3 月 7 日に第 7 回卒業証書授与式を挙げる。205 名の生徒が本校を巣立つ予定である。

本日は 1 年間本校が取り組んだ成果を報告させていただく。忌憚のない意見をいただき学校改善に繋げていく。

2．協議委員長あいさつ

1 年間の目標達成状況を見て、忌憚のない意見を言う。入試の目玉としていた大学進学専科で定員が割れたことは残念である。

3．出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

4．平成 25 年度 本校教育活動の結果報告について協議

（1）平成 25 年度の学校評価（自己評価）について

（校長）3 月に学校経営計画、自己評価を大阪府教育委員会に報告する予定であるため、この協議会では学校経営計画、学校評価（案）としている。学校教育自己診断、学校協議会からの意見については現時点で実施していないため空欄としており、本日の議事を整理し、書き入れる。裏面の自己評価の欄が前回の学校協議会から新たに書き加えた部分である。各項目の後ろに 、 、 の印がついているが達成度合いを示している。空欄については年度末に達成状況を確定させるものである。

本年度の取組内容及び自己評価より特に力を入れていた部分について補足説明をする。

1 「確かな学力」の育成

(1) 基礎的・基本的な学力の定着

ア 少人数授業についての生徒にアンケートを実施した。満足度は70%であり、目標の数値は80%であったためとした。昨年満足度は75%であった。今年度から数学は習熟度別授業としており、学習に課題を抱える生徒のクラスを10名程度の少人数とした。逆のクラスは30名程度となり、昨年よりも多い人数で授業を行うことになり、満足度の数値減少原因ではないかと分析している。

イ 中退率を2%改善する。12月現在の中退率を見て2%の改善は困難であると感じている。中期目標にも上げており、単年度での改善というよりも複数年かけて改善していく。

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 規範意識を身につけさせる

ア 遅刻数削減の取り組みについて前年度比20%の削減を目標としているが12月では6.3%の減少にとどまっている。その後の統計を進めているが10%程度まで削減できる予測である。

3 自立・自己実現の支援

(1) キャリア教育・職業体験教育の充実

ア インターンシップへの取り組みの項目では参加生徒50名を目標としていたが17名にとどまった。今後は教育課程への位置づけなどを検討し、多数の生徒が参加するよう指導していく。

(2) 資格取得

ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進について、電気系2年生に全員受験させている第2種電気工事士の結果が非常に振るわなかった。目標では70%以上としていたが37%と半減した。さまざまな要因が重なった結果であると分析している。不合格となった生徒の3年生での再チャレンジを含め合格率の改善をめざす。

就職指導については担当者から説明があるが、本年度も学校紹介による就職希望者の内定率は100%を達成した。一次試験の合格率が課題である。

(3) 進学希望生徒への支援

ア 大学等に接続する教育課程の改善の取り組みについて、今後は新設される工学系・大学進学専科の取組みとなる。志願者が募集定員に満たないなど前途多難ではあるが、上位で合格した生徒の中学校での成績を分析したところ、この専科の教育目標に十分対応することができる力を持っていると考えている。生徒の期待にしっかり応え、進路保障をしていきたい。

4 地域連携・地域貢献活動の取り組み

この項目については他の項目と比べ順調に目標を達成することができている。

(2) 「ものづくり」による地域貢献活動

ア アルミ製朝礼台の製作・寄贈について、本年度は茨木市の小中学校以外に大阪府立摂津支援学校にも寄贈した。茨木市立庄栄小学校では製作した本校の生徒が寄贈式に招かれた。その様子は茨木市のホームページにも掲載される予定である。

本日の資料については全て1月末のデータである。年度末ではデータを修正し大阪府教育委員会に報告する。以上が本年度の学校経営計画の補足説明である。

来年度の学校経営計画については現在作成中であるが、工学系・大学進学専科に関して明記していく他は本年度の計画を踏襲する予定である。

- (委員長) 質問はないか。
- (委員長) 「確かな学力」の育成のイで中退率 2%改善を目標としているが平成 24 年度は 3.5%から改善はされているのか。
- (校長) 自己評価の値は 12 月 31 日の数値であり、3.5%からの改善目標ではない。平成 24 年度の 3 月末のデータでは 7.4%であった。今年度末のデータは 3 月中旬の成績会議、3 月末の原級留置生徒の転退学等の異動が確定しないと数値に表れない。
- (委員長) 現時点で マークがついているということは改善が見込めないということか。
- (校長) 昨年並みになりそうである。
- (委員長) 数学の授業でクラスを 2 つに分ける方法を習熟度別としたが効果は得られなかったのか。
- (教頭) 学習に課題のある生徒を少人数のクラスとして授業を行っており、このクラスの満足度は高い。しかし、昨年度と比べると成績の良いほうのクラスの生徒の人数が多くなり、展開して授業を行っているメリットを感じることができていない結果となった。
- (委員長) 数値を現す指標を見直す必要があるのではないか。
- (校長) 来年度に向け検討する。
- (委員) クラス分けは 1 年生の初めから行っているのか。
- (教頭) 年度初めは出席番号で分け、第 1 回考査の成績を出してから習熟度別とした。
- (校長) 本年度初めての試みであるため試行錯誤している。教科担当は第 1 回考査までにある程度生徒と関係を築くことができたが、第 1 回考査後には再度、関係を築くことから始めなければならないと感じている。
- (委員) 満足度を調査するのであれば、少人数となっているクラスだけで実施すればいいのではないか。または質問内容を分けて行ってみればどうか。
- (委員長) よい方向で進んでいるのであれば数値の表し方を検討していただきたい。
- (委員長) 模擬人工衛星に関わっている生徒は何人くらいであるか。
- (首席) クラブの部員で行っており 10 名程度である。また、機械系の課題研究でも参加している生徒がいる。
- (委員長) 結果は出ているのか。
- (首席) 本年度は通信機能を強化した。人工衛星からの電波を受信するための機械を校内に設置し、受信に成功した。将来は本物の人工衛星の製作に参加していきたい。
- (委員長) 参加したい生徒は何人でも受け入れているのか。
- (首席) 現在は部活動であるので受け入れに制限はない。
- (委員長) インターンシップの受け入れ人数が減っていることについて説明をいただきたい。
- (首席) 受け入れ企業が減ったわけではない。年度によって学年、クラスの雰囲気などが変化し、人数が増えたり、減ったりしている。本年度は部活動の試合などで辞退者が出ってしまったため減っている。
- (委員長) 受け入れる企業数が問題ではないのか。目標達成するためにはどのようにすればよいのか。
- (首席) 1 年生にも募集をかける。また、参加した生徒に感想文を書かせ、次年度の 1,2 年生に配布する。
- (委員長) 報告会などはできないのか。
- (首席) インターンシップの参加生徒はほとんどが 2 年生であり、実施時期が夏休みである。夏休み明けに 1 年生を対象に報告会を行ったとしても、その 1 年生が参加するのは 1 年後となる。2 年生となり参加を考えるとときには報告会の記憶はほとんどない。逆に参加した 2 年生が 3 年生となった時に報告会を行い、新しい 2 年生に参加を促しても昨年参加した生徒の記憶が薄れてしまいタイムリーでなくなる。そのため感想文の提出をさせている。

- (委員長) インターンシップは重要であるため改善方法を要望する。
- (委員長) 第2種電気工事士について説明していただきたい。
- (電気系長) 昨年まで主担を務めていた教員が1年生の担任となり、資格指導に堪能な教員が人事異動で他校に転出した。新しい体制で取り組んだが、連携をとることができていなかった。また本年度の電気系2年生は放課後遅くまで残り、資格取得に臨む姿勢を持っている生徒が少なかった。残ってがんばろうとこちらが働きかけても、気が付けば自宅へ帰っている。モチベーションを上げる方法を考えなければならない。
- (委員長) 人が変わると結果が変わるシステムはおかしい。資格取得について毎年同じ数値を出すことができるシステムの確立が必要ではないか。
- (電気系長) 来年は主となっていた1年の担任が2年の担任となり、結果は出すことができると思う。
- (委員長) 人に頼るシステムから教科のシステムへ変更が必要であると感じる。

- (委員長) 工学系の定員割れについて課題を説明していただきたい。
- (校長) 第2志望で合格となった6名に関して学力差があると感じている。個別指導、補習体制を確立させ対応していく。
- (委員長) 初年度であるため結果を残せる体制づくりをお願いしたい。  
今宮工科、淀川工科はどうだったのか。
- (校長) 両校とも定員を超えていた。しかし、両校とも総合募集の専科で合格した生徒と大きな学力差がみられないと聞いている。  
本校では34名の生徒だけをみれば総合募集の専科での合格者よりも学力の高い生徒が多い。
- (委員) 総合募集の専科を第1志望として第2志望を大学進学専科とした生徒のなかで学力の高い生徒を回し合格とすることはできないのか。
- (校長) 第1志望で合格した者を回すことは制度的にできない。
- (委員長) 今回の入試に関して改善方法はないのか。
- (校長) 中学校の教員に入試システムの理解を求めていく。

- (委員長) 地域連携・地域貢献活動の取り組みの推進について、この内容についてはよい結果が出ているが質問や意見はないか。
- (委員) 朝礼台の設計は年度によって変更はあるのか。
- (機械系長代理) 変更している。昨年度までは収納式の階段であったが今年度は固定式、または取り外し式で製作している。また、小学校、中学校、高校でステージの広さや高さを変えている。昨日1台は茨木市立養精中学校へ送り出した。その様子は中学校のHPで確認できる。

- (委員長) 平成25年度生活指導部の取り組みについて生徒指導主事から説明をお願いします。
- (生徒指導主事) 今年度の生活指導部の方針は身だしなみ指導と、遅刻指導の2つの柱を立てていた。  
身だしなみについて、夏季は制服を着ずにTシャツでいたり、冬季はブレザーを着ずにカッターシャツの上にカーディガンを着て授業を受ける生徒がいる。そのような生徒を見たとき、カッターシャツやブレザーを着るように指導をしているが、その場限りになることが多い。来年の取り組みとして、注意した回数によって懲戒指導を検討している。また、学校指定のカーディガンを作ることとした。  
遅刻指導について、昨年度までは登校すべき日数の4割遅刻した生徒を指導対象としていたが、今年度は3割以上遅刻した生徒を指導対象とした。結果、遅刻件数は減少している。  
身だしなみ指導について服装以外ではピアス、茶髪は収束している。女子のスカート

丈についてもミニスカートは見受けられない。夏季にクロックスやサンダルで自転車に乗って登校する生徒がいたが危険であるため禁止とした。

懲戒指導件数は昨年の前期同時期と比べ5割増加した。指導対象を見逃さず、厳しい指導をおこなってきた。前期は増加したが後期は昨年度と比べ3分の1となった。

全国的に見ても本校の中退率は依然高いままである。入学してきた生徒、また、その保護者の希望を叶えるためにも、更なる指導の改革が必要である。

(委員長) 中退率について他の工科高校もこのような数値となっているのか。

(校長) 9校のうち3校程度が本校と同じような数値となっている。工科高校は目的意識を持って入学してくる生徒と学力の低い生徒の2極化が進んでいる。

(委員長) 原因を明確にする必要がある。

(校長) 学習意欲のない生徒、低学力の生徒が加速度的に多くなっている。転学、退学する生徒に対してアンケートを新たに作成し、記入を求めている。結果はまだでない。

(委員長) モチベーションを上げるためにも、本校のアドミッションポリシーを示さなくてはならないのではないか。

(生徒指導主事) 中退率と家庭状況は密接な関係があるように感じている。

(委員長) 大きな背景があり改善は難しそうであるが取り組めることは行っていただきたい。

(委員) 最近はおきらめるのが早い生徒が多いように感じる。あと少しがんばる気持ちを持たせることができるように指導を願いたい。

(委員長) 遅刻の改善方法はないか。

(生徒指導主事) 遅刻しなかったときに褒めてやるなどの教員の声掛けが効果的である。注意や課題を与えることよりも大切であると感じている。

(委員) 生徒の気持ちを高めるために地域と協力することなどはないか。

(生徒指導主事) 家庭科の授業で茨木市の老人会の方と一緒に実習を行う取組みをしている。孫のような生徒とかかわっていただいている。

年2回、地域清掃を行っており、地域と合同で行うことができないかと考えている。

(委員) 地域清掃の参加生徒数は何人くらいなのか。

(生徒指導主事) 200人近い生徒が参加している。

(委員) 地区に声をかけるので実現できるよう進めていただきたい。

(委員長) 地域との連携、関わり合いによって生活の意識を向上させるという結論とする。

(委員長) 7期生の進路について説明していただきたい。

(進路指導主事) 第2回の学校協議会での報告から変化した部分について説明する。学校紹介による就職希望者は2月10日にすべて内定をいただいた。進学から就職に希望を変えた生徒が3名おり、その3名を除くと1月6日に全生徒が決定していた。今年度の特徴として機械系は重工業関係の就職先は内定率が高かった。電気系は鉄道関係よりも保守点検、環境化学システム系では製薬関係の就職先が好調であった。

(委員長) 資格取得実績を報告していただきたい。

(首席) 別紙に示したが多くの資格について例年並みである。電気工事士については大幅な変化があったが先ほど説明したとおりである。まだ数値の入っていない項目についてはまだ試験が行われていないか結果待ちである。

(委員) 玉掛けとはどのような資格であるのか。

(機械系長代理) クレーンなどでものを釣り上げるときに、どのような道具を用いてどのような角度で上げるべきであるかということ修得した者に対して与えられる資格である。

(委員長) 資格取得に関して合格率は示さないのか。合格者が減っているが実際には合格率が上がっているものなどがあるのではないかと。数値がよくなるように表現方法も検討を願う。

- (委員長) クラブ・同好会の活動実績について説明をしていただきたい。
- (教頭) 実績として顕著なものは少ないが、本年度はクラブ加入者が増えていることがよい点である。実績としては自転車競技部がインターハイと国体で3位入賞した。
- (委員長) 自転車競技部の練習方法はどのようなものか。
- (教頭) 学校外に出て、京都までロードを走ったり、土日には河内長野にある関西サイクルスポーツセンターなどで練習を行っている。
- (委員長) 特別な予算などはあるのか。
- (教頭) 大阪府教育委員会からがんばった学校に特別予算がつけられている。本校も昨年度、応募したところ250万円の予算が付き、自転車競技部に係る物品を購入した。
- (委員長) クラブ加入率の数値目標があったが達成しているのか。
- (校長) 本年度は45%としているが45.4%で達成している。中期目標では60%を目標としている。

- (委員長) 学校教育自己診断について説明していただきたい。
- (首席) 3学年の生徒と保護者、教員にアンケートを実施した。生徒509名、保護者420名、教員39名から回答を得た。昨年との比較を行い、上昇率の大きかった項目と、低下率の大きかった項目をまとめた。

担当者の個人的な意見・感想ではあるが、教員は教育目標を立て授業を行うが、生徒が理解しないまま進むことがある。生徒はわからない部分が増えると授業を受ける気持ちが低下する。ゆっくり時間をかけ授業を行うと目標に到達することができない。生徒と教員の間ズレが生じ授業の成立が困難になる。生徒の学力に合わせた授業内容にすると卒業時に得られる力が低下していく。これにより就職内定率や進学率の低下につながる恐れがある。さらに、出口の数が低下すれば志願者の低下にもつながりかねない。教員は授業以外に校務多忙であり、他の教員のサポートに時間を割くことが難しい。教員個々の生徒対応の力、授業力の向上を行い、生徒が落ち着いて授業を受ける場を作ることが課題である。

- (委員長) 保護者と教員は思いが繋がっているように感じるが、生徒と教員の思いは繋がっていないように感じる。関連項目をまとめ、改善策を立てていただきたい。
- (校長) この結果や大きく数値が低下したのに関しては教員全体に提示し、特に意識しながら指導を続けていく。

- (委員長) 入学者選抜について説明をいただきたい。
- (教務主任) 総合募集の専科、工学系大学進学専科とも調査書、学力検査の配点は昨年度から変更はない。総合募集の専科を第1志望とした生徒で不合格となったものから第2志望を大学進学専科としていた生徒6名を工学系大学進学専科に加えて合格とした。
- (委員) 入学した生徒が大学へ進学するときに工科高校特別推薦枠などにおいて有利な点はあるのか。
- (校長) 現在検討中である。
- (委員長) 入学後に転科することはできないのか。将来的にも検討したほうがよいのではないか。
- (校長) 原則としてできない。総合募集の専科で大学進学をめざす生徒、工学系大学進学専科から就職する生徒については当然支援を行う。校内選考の順位などについてはこれからの検討課題である。
- (委員長) 今年は競争倍率が高くなり志望者が増えたことはよいことであると感じる。

- (委員長) 意見交換はないか。  
議事を終了する。

- (教頭) 閉会のあいさつを校長からさせていただく。
- (校長) 本日の提言を活かし、これからの学校経営を進めていく。